

9/18 列王記第一 9 章 1-9 節「聖別された宮として」

小池 宏明 牧師

ソロモン王朝を確立した後、ソロモンは、神の宮、神殿の建設に取りかかり、20 年かけて、神殿と王宮を完成させた。

* 神殿奉獻式での祈り

神殿を主なる神様にお献げする奉獻式で、ソロモン王は祈った。その祈りは、神殿という人間が作った建物に絶対的な価値を置くのではなく、神殿をきっかけとして営まれる信仰者たちの生き方を適切に示していた。献げられた神殿には、主なる神様のご臨在があっても、主はその神殿の中に収まっておられるわけではない。天の御国を治めておられる神様に、祈りが届けられるための中継場所のような位置付けが神殿であった。今日の教会堂も、神様のご臨在を象徴する聖なる場所であり、最善のものをお献げしたいが、建物自体を絶対視してもいけない。私たち信仰者の、信仰と献身、そして悔い改めの日々を支えるきっかけとなる場所なのである。人間が建てた建物としての神殿は、人間が作ったものであるがために「永遠」とはならない。

* 主イエスと教会は聖別された神殿

新約時代、地上を歩んでおられた主イエス様は、神殿を三日でよみがえらせると予告した。(ヨハネの福音書 2 章 19 節) これは、イエス様が十字架に掛けられた後、三日目に復活されること示したのだ。主イエス様は、自らが、父なる神様に愛され、御霊なる神様が臨在している「神殿」であると証しされた。私たちは、主イエス様を仲立ちとして、主の御名を通して父なる神様に祈りを届けることができる。父なる神様は、イエス様のお名前を通してささげられる祈りを、聴いて下さるのだ。イエス・キリストという神殿は、決して壊されることがない「とこしえの宮」、「永遠の神殿」なのだ。新約時代に生きている私たちは、主イエス・キリストに、聖別されたとこしえの神殿を見ることができる。そして、救い主、イエス・キリストの十字架の贖いによって救い出された私たちもまた、聖霊なる神様を内に宿している「主の宮」、「神の神殿」なのだ。(第一コリント 6 章 19 節) 私たちもキリストと同じような立場が与えられている。何という恵みだろうか。私たちの体は、内側に聖霊を頂いている、聖霊の宮なのだ。自分の体は自分のものではなく、主イエス様のものだ。聖別された聖霊の宮として、最期まで、感謝しつつ全うできるように、祈り求めよう。。